

- 青少年育成町民会議 ②~⑦
- シリーズ・可茂はひとつ ⑧~⑪
- 町の家計簿、公表 ⑫~⑯
- 川辺おどり ⑯
- 第25回郡体育大会 ⑯~⑰
- お話をせて ⑰

発行・岐阜県川辺町 ■ 編集・川辺町役場企画室 ■ 印刷・四橋印刷KK

座間龍尾さん

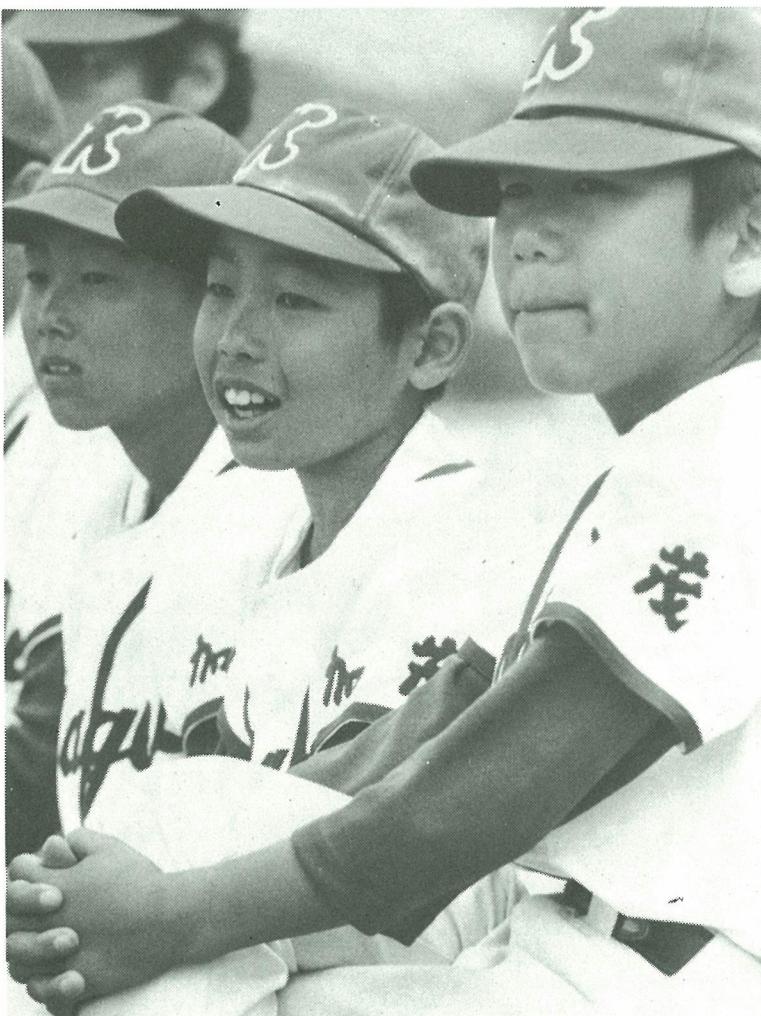
けにひと役 踊り盛り上

盆踊りに“おはやし”は欠かせない。7月15日に行われた下川辺地区の盆踊りでは、同地区的座間龍尾さん(29)が“はやし手”を頼まれ、踊りの盛り上げにひと役買った。以前、趣味でドラムをたたいていただけに、その“腕”は確かだ。



もはや人ごとではありません。毎日のように新聞紙上やテレビ・ラジオをにぎわす青少年の非行の波は、わたしたちの足元にまで押し寄せてきました。このような事態に臨んで町は、このほど青少年育成町民会議を開き、非行追放を訴えました。しかし同会議の力だけでは足りません。いまこそ町民1人1人が考え直すときなのです。

町民会議で1人1人の協力訴える



いっしょにけんめいスポーツに打ち込む子供たち。若い芽を正しく導くのは社会・家庭・学校の務めです（下川辺で）

人ごとじゃない少年非行 いま、わたしたちの足元まで

昭和四十一年五月、国は社団法人青少年育成国民会議を結成、翌年三月には県青少年育成県民会議

が設立されました。これに呼応して四十三年五月、町に青少年育成町民会議が誕生し、今日まで事業

を進めてきました。

さる七月四日に商工会館で開かれた町民会議には、民生委員、区長、学校関係者、PTA役員、町内企業関係者などから成る委員約百人が出席。町側から町民会議の

趣旨、役割、活動方法などを説明したあと、本町を青少年健全育成の町とすることを宣言、非行防止に向けて、さらに強力な活動を進めていくことを確認しました。

しかし、青少年の育成を同会議だけに任せて事足りりとするわけにはいきません。彼らに最も強い影響を与えるのは、なんといつても家庭なのです。ところが、都市化と核家族化の進む中で、家庭の機能は低下する一方です。そのためさまざまな問題が起きてています。共働き家庭の増加に伴って「かぎつ子」も増え、子供たちを放任することが多くなってきました。これが△仲間とともに働く態度を欠く△主体性に乏しい△思いやりがない——などの弊害となつて現れてきています。

わたしたちの町では、青少年育成の場として子供会育成会、スポーツ少年団などが積極的な活動をしていますが、各家庭でもいま一度、果たすべき役割について考えてみます。が、各家庭でもいま

町ぐるみの協力必要

教育とは、社会全体の中での人づくりのことです。したがつて青少年の教育を学校という狭いワクの中だけで考え、悩んでも、子供たちを取り巻く多くの難問を解決することはできません。社会・家庭・学校の三者が一体となつて、問題解決のために努力することが

なこよりたいせつです。

機能向上——の三本を柱に、全町民の参加を得て事業を進めていくことにしています。

びかけるとともに、雇用主の理解も深める。

連日新聞紙上をにぎわす少年非行。わたしたち1人1人が認識を新たにすべきです



なによりたいせつです。

青少年育成町民会議では、望ましい青少年像を①常に自信と誇りを持つ青少年②常に愛情と思いやりを持つ青少年③常に郷土愛を持つ青少年——として、これを達成するためには、社会教育の充実・強化▽学校教育の確立▽家庭の教育

▽青少年が各種の施設をできる

遊び型非行が主流

加茂署

ことし
月かう、月

そのため町民会議は、本年度から五つの活動部会を設けました。すなわち▽青少年部会▽教育福祉部会▽非行対策部会▽地区活動部会▽家庭部会――です。これらの部会がそれぞれ連絡を取り合つて、会議全体で次のような活動を進めています。

だけ利用するよう施設の状況や利用方法を知らせるとともに、遊休施設の開放などを呼びかける。

▽家族だんらんのための「家庭の日」運動を普及するなど、家庭生活の健全化を図る。

▽環境浄化に関する業界の自粛および自主規制を促し、地域や

六

▽ 非行青少年の早期発見、早期
補導のための体制を地域ぐるみで確立する。また再犯防止のために関係機関、団体と連携を保つ。

自覚を高め、奉仕活動や善行を奨励する。

▽若者が余暇を健全に過ごすことをスポーツ、レクリエーションを奨励する。

▽働く青少年が教育、訓練など各種活動に進んで参加するよう呼

める。

▽非行青少年の早期発見、早期補導のための体制を地域ぐるみで確立する。また再犯防止のために関係機関、団体と連携を保つ。

全刑法犯中に占める少年の割合は七二・七%と、きわめて高くなっています。刑法犯少年の八・一%が窃盗で補導されており、その内訳はオートバイ盗、万引、ガソリン盗などで、いぜんとして“遊び型非行”が主流です。

シンナーなどの乱用、ぐ犯
不良行為も、前年同期より八
十三人も増えました。このな
かで、高校生の不良行為（十
九人）が前年より六十四人も
減ったことが注目されます。

【注】 ◇刑法犯 刑法に定められている罪を犯したり、

これに触れたりする行為

「非行のない明るい町に向けて
わたしたちの町は「青少年健
全育成の町」を宣言しました

学校・家庭・社会では…

前のページでは、青少年育成町民会議の果たすべき役割や、活動を進めるに当たっての構想などを紹介しました。さて具体的にはどうするのか、ここで各分野別の実践事項を挙げてみましょう。



子供たちが楽しい学校生活を送るために、児童・生徒が児童・生徒としての意識を高め、自分たちの行動を規範化するための努力（東小）

子供たちが非行に走るのは▽充実した学校生活が送れない▽友達から仲間はずれにされがち——などが原因の一になっています。そのため先生が児童・生徒一人一人の生きかたを見つめ、素行・性格、考え方をより望ましい方向に導いてやることが肝心です。そうすることにより、すべての児童・生徒が学校生活に魅力を感じ、楽しく登校できるのです。

意欲的な学習

態度を育てる

学校での子供の指導を、問題児

指導要領改訂の趣旨に沿って「人間性豊かな児童・生徒の育成」を重視する。教科指導内容の基礎的・

【基礎的・基本的事項の精選】
基本的事項を精選し、教師の創意工夫による授業法の研究に努める。

方法や考え方をわかれば、自主的に学び、友と協力してものごとに当たることができ、いつそうの喜びと充実感を持つ。充実感を持つ目標に立ち向かう意欲を起こさせる学習態度を育てる。

◇校内指導体制の充実

【児童・生徒指導の充実・強化】
教育学習を各小中学校で行う。

機能回復を第一に

家庭 教育

家庭は人々の血縁的な集まりで、骨肉的な愛情でつながれた特殊な集団です。しかし社会の近代化と

ともに、家庭の機能が低下し、とくに最近は教育面でも大きく減退しています。

県下とめたこと
一月から六月までの少年犯罪状況によると、中学生非行の増加が特徴として挙げられます。

の処理という消極策だけに終わらせてはいけません。あくまでも健全育成という積極的立場で行うために、次のことを徹底させるようになります。

◇個性能力に応じた教科指導の充実

【基礎的・基本的事項の精選】
指導要領改訂の趣旨に沿って「人間性豊かな児童・生徒の育成」を重視する。教科指導内容の基礎的・

【家庭教育学習】PTAの家庭教育学習を各小中学校で行う。

◇指導体制の連携

【児童・生徒指導関係機関や各種団体との連携強化】警察、児童委員、保護司、区長、青少年指導員などとの連携をいつそう密にし、問題児童・生徒の早期発見に努めるとともに、子供会育成会、PTA、婦人会、青年協議会、商工会などとも手を取り合う。

中学生の増加がめだち、高校生を追い抜いて全体の四割を占めています。前年より八割近く増えました。原因として校内暴力や生徒間の乱闘事件などが挙げられます。

窃盗の中でも多いのは万引とオートバイや自転車などの乗り物盗で、加茂署管内と同じく「遊び型非行」が前年に続いて相変わらず多くなっています。女子非行では、刑法犯のうち八四%が万引です。

不良行為の中で多いのは喫煙で、全体の六割弱。深夜はいかい、暴走行為を大きく引き離しています。

校内生活を楽しむ

学校 教育

中学生非行増える

県 下

県警がま



このような現状から、家庭教育の持つ意義の理解、家庭教育の機能回復を第一に考えなければなりません。そして子供の発達の過程に応じて、なにをどのように身につけさせていくか、各家庭での指導の重点や方法を理解することがたいせつです。

親の放任主義

を追放しよう

子育ては、家庭生活の最も重要な課題です。しかし現代の家庭は、子供の社会的なしつけの面で、か

なり力不足といわなければなりません。家庭の教育力を高めるために父親は、独自の立場で積極的にわが子を導かなければなりません。明るい家庭づくりを進めるためには、かけ声ばかりではなく、個々の家庭生活の中に根を下ろした運動を進めることができます。そこで、すぐにでも実行できる次のような運動を進めましょう。

▽あいさつを交わす▽家庭の仕事を手伝わせて働く喜びを教える▽履き物をそろえる習慣をつける

家庭は子供にとって基礎的な人格形成の場です。だからといって家庭教育を個々の家庭の内部に閉じ込めてしまうことも感心できません。いま必要なことは「家庭内教育」から脱皮して、家庭間の協力をよく見つめることができます。青少年の不良化を防ぐには、親の放任主義を追放し、子供の行動をよく見つめることができます。また不良行為を見かけたら注意でいるおとなになる努力も欠かせません。

家庭は子供にとって基礎的な人格形成の場です。だからといって家庭教育を個々の家庭の内部に閉じ込めてしまうことも感心できません。いま必要なことは「家庭内教育」から脱皮して、家庭間の協力をよく見つめることができます。青少年の不良化を防ぐには、親の放任主義を追放し、子供の行動をよく見つめることができます。また不良行為を見かけたら注意でいるおとなになる努力も欠かせません。



力を図ることです。

戦後第3のピーク

全国的にみても少年犯罪は中学生、小学生へと低年齢化の傾向を見せてています。

少年犯罪は戦後第三のピークとなっています。警察庁がまとめた昨年一年間の少年非行状況をみると、刑法犯少年は約十万六千人。成人を含めた全刑法犯約三十九万二千人のおよそ四割に当たる戦後最悪の様相を呈しています。

内容は、暴行・傷害などの粗暴犯が五十四年に比べて約二三%、窃盗犯が約一四%、強盗・放火などの凶悪犯が約一二%とそれぞれ増加しました。

年齢別では、補導された少年の約七〇%を十四—十六歳で占める一方、五十四年に比べて十五歳が約二四%、十四歳が約一七%増え、中学生の犯罪がめだちました。

また、ことし一一五月の全刑法犯に占める少年の比率も昨年同期より一・二%増えています。

明るい町づくりを 社会教育

おとなが変わ れば子供も…

▽青少年育成町民会議の充実を図り、実践団体としての機能が果たせるようになります。

子供にとって「社会」とは、友達との交流の場であり、その他多くの人たちと接觸する場でもあります。そしてそこは、学校や家庭と連つて人々の利害があらわに対立したり、子供にとって好ましくないいろいろなものが存在するところもあります。このように、社会では現実そのものがむき出しになつており、子供たちもその影響を受けやすいのです。

町では社会教育の重点目標を「明るく豊かな町づくり」とし、次のことを徹底させます。

▽業界・地域・関係機関が協力して環境を浄化する。

▽地域で連帯して青少年の非行活動を盛んにする。

▽青少年団体への加入を促し、活動を深め、社会活動への参加を進める。

▽青少年指導者の養成に努め、資質を高める。

▽青少年の非行防止に果たす家庭の役割などについての理解を深めます。

▽職場で、働く若者の指導を充実する。

▽ミニ集会を開催(鹿塙で)

地域ぐるみで非行防止をと
ることを徹底させます。

親が姿勢を正して・・・

心身ともに健やかな青少年を育てるために、わたしたちはどう対応していくべきなのでしょうか。町民会議に出席した人たちの主な発言をまとめてみました。

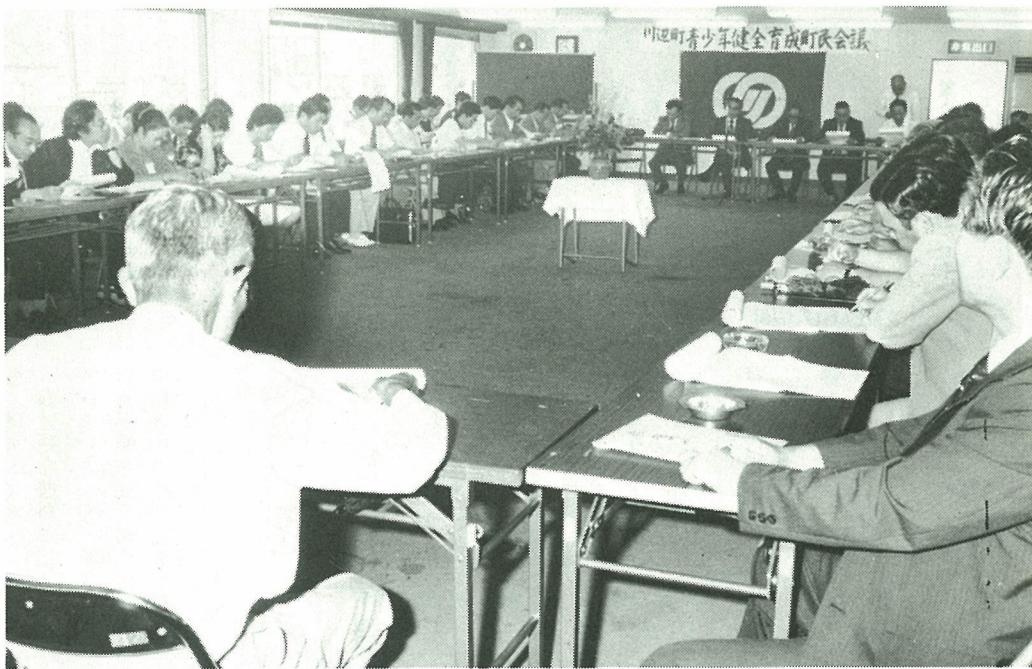
町民会議での発言から

——いまの世の中は、青少年が健全に育つ環境ではなくくなつたんぢやないでしようか。また育てる力もなくなつたと思います。子供たちにとつて悲しむべきことです。こんななかで子供たちは、事の良し悪しを問わず環境に染まつて育つていきます。

非行問題は、もはや人ごとではありません。わたしたちの足

——この町民会議を契機に全町挙げて健全育成を進めようじやありませんか。われわれでやつてみようという決意を固めましょう。

「遊んでばかりいて。宿題やつたの。子供のほうも負けてはいませんよ。」「どこかへ連れて行ってよ。」こうしたやりとりで、なんとななく夏休みが終わってしまった、ということがないようにしたいのですね。



青少年健全育成の手立てを考えた町民会議（商工会館で）

善悪のけじめ

——子供に対するしつけは、
小さいうちからしなければいけ
ません。善惡のけじめをつけさ
せ、家庭や地域で見守っていく

べきです。よいことはどんどんほめてやり、悪いことは注意する。そうすれば大きくなるにしたがって、自然と正しい行いが生じるのです。

——青少年の健全育成を進め
るに当たつて「地域に根差した
活動を」と、よくいわれるが、
地域活動をいかにやるのか、地
域でだれがどのようにやつたら
よいのか、こうした具体的なこ

生活プラン

夏休み



犯罪や事故をなくそう



夏祭りや海水浴、キャンプなど、楽しいシーズンがやってきました。しかし一方で、行楽地などの暴力犯罪、解放感からの少年非行など、夏はいろいろな犯罪や事故が増える季節です。暴力犯罪の被害を防ぐために、また子供を非行から守るために、次のような点にじゅうぶん注意しましょう。

■暴力犯罪の被害に遭わないために

▷暴力的な迷惑行為をしようとする者には、すきを見せたり、相手にならないようにする。

▷暴力団に誘われても、とばくやノミ行為、覚せい剤などには絶対手を出さない。

▷他人が暴力の被害に遭っているところを見たり、聞いたりしたときは、近くをパトロール中の警察官に連絡をするか、110番をします。

■子供を非行から守るために

▷勉強や手伝い、遊びなどの日程表を作り、規則正しい生活を送らせるようにする。外出するときは必ず行き先を確かめるとともに、夜遊びにはじゅうぶん気をつける。

▷非行防止は親子の会話から。家庭が楽しいところであるように、家族そろってだんらんする機会となるべく多くつくる。

▷事の良し悪し、欲望を抑える自制心、人に迷惑をかけない生活や行動など、基本的に身につければならない「しつけ教育」を心がける。

小さいうちから厳しい目で

——働く若者を見ても、非常

夏祭りや海水浴、キャンプなど、楽しいシーズンがやってきました。しかし一方で、行楽地などの暴力犯罪、解放感からの少年非行など、夏はいろいろな犯罪や事故が増える季節です。暴力犯罪の被害を防ぐために、また子供を非行から守るために、次のような点にじゅうぶん注意しましょう。

——町民会議のメンバーだけではなく、末端まで浸透させることが大事です。全町民の認識を新たにして、全員の協力で問題解決に当たる姿勢が必要だと思

——行政が悪い——親はどうも無責任ですね。今後いろいろ問題が出てくるでしょうが、町民会議でも努力しなければいけません。

——少年非行は中学生から最近は小学生にまで及んでいます。これには親の姿勢がかなり影響しているのではないかと思うようか。自分の子供ぐらい指導すべきです。親が逃げているような気がします。

——少年非行は中学生から最近は小学生にまで及んでいます。これには親の姿勢がかなり影響しているのではないかと思うようか。自分の子供ぐらい指導すべきです。親が逃げているような気がします。

問題が起きると「学校が悪い」

——行政が悪い——親はどうも

——日本には「子供だから」といって大目に見る習慣があります。そして、おとなになつてから「どうしよう」と悩むんですね。やはり子供のうちから厳しい目で見守るべきです。

社会的環境の見直しも必要

——町民会議の形はできま

——青少年非行は、町民的課題です。町民会議の形はできましたが、実質的な活動をしない

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

第3章・安らぎの町へ

みんなが元気に暮らせる町、和気あいあいとしたなごやかなふん団気の漂う町、子供からお年寄りまで幸せな毎日を送れる町——そんな環境をつくるにはどうしたらよいのでしょうか。今月のテーマは「安らぎの町へ」——。

可茂はひとつ——新広域市町村圏計画③



次代を担う子供たちのためによい環境を提供しなければなりません（第一保育園で）

このごろは共働きの家庭が増え、それにつれて家でじゅうぶん保育できない幼児が多くなっています。そうした子供たちを持つ家庭にとって、保育園はなくてはならないものです。

わたしたちの町には、町立の第一、第二保育園、私立の上米田保育園があります。これら三保育園の定員合計は三百九十九人で、七月一日現在の園児数は三百五十人。定員に対する割合は八九・七%です。保母の数は十九人で、一人当たり十八・四人の園児を受け持つて、保育園はなくてはならないものです。

加茂・可児全体では公私立合

せて四十八の保育園があり、四千五百十四人を保育しています。市

町村によっては多数の未措置児童

を抱えているところもあり、施設

七十二人で、一世帯当たり三・一

人です。

可茂圏域の母子（父子）家庭は

七百四十五世帯、二千二百七人に

及んでいます。近年、交通事故や

離婚件数の増加などにより、これ

らの家庭は増える傾向にあります。

経済的、精神的にも不安定な要素

が多く、今後の行政課題として取

り上げなければなりません。
の整備を迫られています。
子供を取り巻く環境も、遊び場
の不足によって交通事故が増える
など、悪化しています。あすの社会
を担う児童を守り、健やかに伸
び伸びと育つ環境をつくりあげな
くてはなりません。



保育園の整備図

可茂地域新広域市町村圏計画では、次のような対策を盛り込んでいます。

①保育が必要な子供の完全収容を考え、保育園の整備とともに古くなつた施設の改善に努める。

②自然の中で親子が楽しむことのできる野外活動センターの設置を検討するとともに、他地域との交流を進め、子供たちの広い視野を育てる。

③児童館など、児童施設の設置を進める。

④保護者のいない子供や、保護者が養うことが適当でない子供のための施設整備と、里親制度の体制強化を図る。

⑤母子（父子）家庭に対する相談援助活動を充実する。

⑥母子家庭の経済的自立と精神的安定を助けるため、各種貸し付け資金の円滑な運用と充実に努める。

⑦住宅のない母子家庭に対しても、公営住宅に優先的に入居できるような施策を進める。



お年寄りの生きがいとは——。町では充実した老後に送つてもらうため勉強の場を設けています（農協会館で）

わたしたちの町に住む六十五歳以上のお年寄りは千百五十七人（十五年国勢調査時）で、全人口の一成一・三%を占めています。これを五十年国勢調査時と比べると十九人（九・四%）増えており、今後も増加することが予想されます。こうした状況の中で、老人福祉に対する期待は大きく、お年寄

りの生きがいを求める声は著しく高まっています。

この要望にこたえて町では、老人クラブの設置を進めてきたほか、福寿大学を開講し、盆栽や生け花、お茶など各種講座を開いてお年寄りが張りのある毎日を過ごせるよう気を配ってきました。

町の老人クラブは、六十歳以上

の老人クラブを対象としており、現在十九クラブが結成されています。会員数は千三百八十人。いま、クラブ員の最大の関心事はゲートボール。早朝からステイックを持つてゲームに熱中するお年寄りを見ることができます。

これからは、こうした活動を通して健康で生きがいのある老後を

お年寄りに働く場

これらを考え、次のような計画を立てました。

これらを考へ、次のような計画を立てました。

①労働意欲と能力のあるお年寄りに対し、知識や経験を生かせる就労機会の確保に努める。また老人クラブ活動をいつそう進め、世代を超えた社会交流の場を広げる。

送れるよう、また社会的保護を必要とするお年寄りに対しては、家庭奉仕員（ホームヘルパー）制度の充実など、温か味のある対応が必要といえるでしょう。

一方、障害者に対する施策も忘れてはなりません。わたしたちの町にも二百七十人の身体障害者がいるほか、多くの精神障害者がいます。

可茂地区で身体障害者手帳を持つ人は三千四百四十二人。産業事故、交通事故の増加に伴って、その数も増える傾向にあります。また精神障害者は、登録患者で九十八人が確認されていますが、制度的未整備も重なって、全体のは握がきわめて遅れています。

急速な社会情勢の変化に対応できず、精神的健康のひずみから精神障害に至る傾向が強くなる中で、学童の登校拒否なども、広く心の病気の一つとして考え、対処していく必要があります。

②家庭奉仕員の質的向上と充実を図るとともに、特殊浴そう車、布団乾燥車の広域的設置、利用を検討する。

③心身障害者（児）や、そうした人を持つ親の会などの組織育成に努め、励ましと指導、社会復帰を促す。また、こうした人たちを側面から援助するボランティア活動を進める。

地域アンケートでは

（老人福祉・心身障害者（児）福祉に関するもの）

■老人福祉施設の状況

▽満足 2・1% ▽不満 40・0%

■心身障害者（児）福祉施設の状況

▽満足 1・4% ▽不満 39・3%

■お年寄りの生きがい対策

△満足 52・4%	△満足 4・1% ▽不満 26・3%
-----------	--------------------

適切な保健医療を

地域ぐるみの健康運動展開

可茂地区では、健康の維持・増進を図るために、保健所を中心とした協力を得て、検診などの事業を行っています。しかし受診率が低く、その実績はじゅうぶん上がつていません。これらの事業は地区公民館、集会場などで行っており、設備面で不適当なところが多いのも課題です。

病気の治療から、予防や日常の健康管理へと変化しており、保健センターなどの専用施設の整備・充実に努めなければなりません。また検査内容を充実し、相談・指導体制の強化を図る一方で、一人一人が自分の健康は自分で守るという意識を持つて、地域ぐるみの健康づくり運動を展開することがたいせつです。

町内の医師数は九人で、入院患者を含めた一日当たりの推定患者数は三百二十三人。一医療施設の一日平均患者数は六十五人です。可茂地区的医療機関は、病院・

こうしたなかで住民の要求は、病気の治療から、予防や日常の健康管理へと変化しており、保健センターなどの専用施設の整備・充実に努めなければなりません。ま

た検査内容を充実し、相談・指導体制の強化を図る一方で、一人一人が自分の健康は自分で守るといふ意識を持つて、地域ぐるみの健康づくり運動を展開することがたいせつです。

献血グループ育成

こうした現状を考え、次のように計画を打ち出しました。

①食生活改善などの地域グループを育て、日常生活で健康の維持増進が図られるようにする。

②各種検診の結果が健康の維持・確保と併せて、潜在有資格者の復帰を図らなければなりません。

こうして、わたしたち全員が、いづれも、どこでも適切な保健医療

■地域保健活動の拠点となる保

状況

▽満足 8・3% ▽不満

51・0%

■休日診療など救急医療の

状況

▽満足 8・3% ▽不満

■各種予防検診などの機会

▽満足 26・9% ▽不満

■医療機関の状況

▽満足 12・5% ▽不満

8・9%



みんなが元気に暮らせるように各種検診を行っています（役場で）

地域アンケートでは

〈保健・医療に関するもの〉

- 各種予防検診などの機会

▽満足	26・9%	▽不満
8・9%		
- 医療機関の状況

▽満足	12・5%	▽不満
8・9%		
- 休日診療など救急医療の状況

▽満足	8・3%	▽不満
51・0%		

- ④機能強化、技術水準の向上を図る。
- ⑤予防接種、環境衛生の徹底および指導体制の強化により、伝染病の発生防止に努める。
- ⑥輸血を充足させるため、住民の自主的参加による献血グループを育てるとともに、移動献血車などによる献血機会の確保に努める。ジン臓移植、角膜移植のための啓もうをし、提供登録を進める。
- ⑦診療体制の強化と、地域内の病院群の輪番制による第二次救急医療体制の完備を図り、体系的な救急医療体制を確立する。さらに救急医療機関、消防機関などが連携して情報システムの整備を図る。



町民運動会も触れ合いのための一手段（川辺中で昨年10月12日写す）

「ミニユーニティー活動進める 触れ合いの輪拡大

多種多様の人々の団体である地域社会は、そこに住む人ととの心の触れ合いから成り立っているといつても過言ではありません。

社会情勢の急激な変化は、人々を物質面で豊かにした半面、かつて地域にあった心の触れ合いや隣人愛、郷土愛などの精神を薄れさせ、個人本位の傾向を強めるなど、人間性を失わせる結果を生みました。

豊かで住みよい地域社会をつくるには、人間的触れ合いや心の結びつきの中で、それぞれの人が役割意識や目的意識を持つことがたいせつです。

いま地域では、自治会、グループなどによる文化・スポーツ・クリエーションなどを通じた活動が行われています。しかこれらの活動も、地縁的集団で展開されていることが多い、広い視野での連帯意識となると、まだまだ問題があるといえます。また地域に適切な指導者が不足していることや、狭い地域での連帯にとどまり、広

く交流が行われていないなどの偏りも生じています。こうした催しをきっかけに、触れ合いの輪が全町へ交流を深めるために、いろいろな手を打っています。毎年秋の恒例行事となつた町民運動会や産業・文化祭が、その一例です。また夏には、商工会青年部が中心になつて川辺おどりを催し、ミニユーニティー活動の一翼を担っています。

しかし、これらの行事にしても、なかなかはなりません。わたしたち一人一人が触れ合いの機運を盛り上げ、それが前述の町民運動会や川辺おどりなどにつながれば、すばらしいものといえます。単発的行事だけに終わることなく、毎日の暮らしに密着しながら進めいかなくてはなりません。わたしたち一人一人が触れ合いの機運を盛り上げ、それが前述の町民運動会や川辺おどりなどにつながれば、すばらしいものといえます。

■ 地域アンケートでは

（ミニユーニティー（触れ合い）に関するもの）

■ 地域の連帯意識

▽普通	59・3%	▽強い	25・5%	▽弱い	6・9%
わからない	8・3%				

■ 自治会活動への参加

▽いつも参加する	43・5%
▽ときどき参加する	40・0%
▽ほとんど参加しない	10・3%
△△ほとんど参加しない	6・2%

■ 参加しない理由

▽ひまがない	29・2%
自治会に加入していない	25・0%
△△意義がない	20・8%
▽わからない	25・0%

強力に指導者養成

地域の触れ合いを進めるため、次のような計画を立てています。

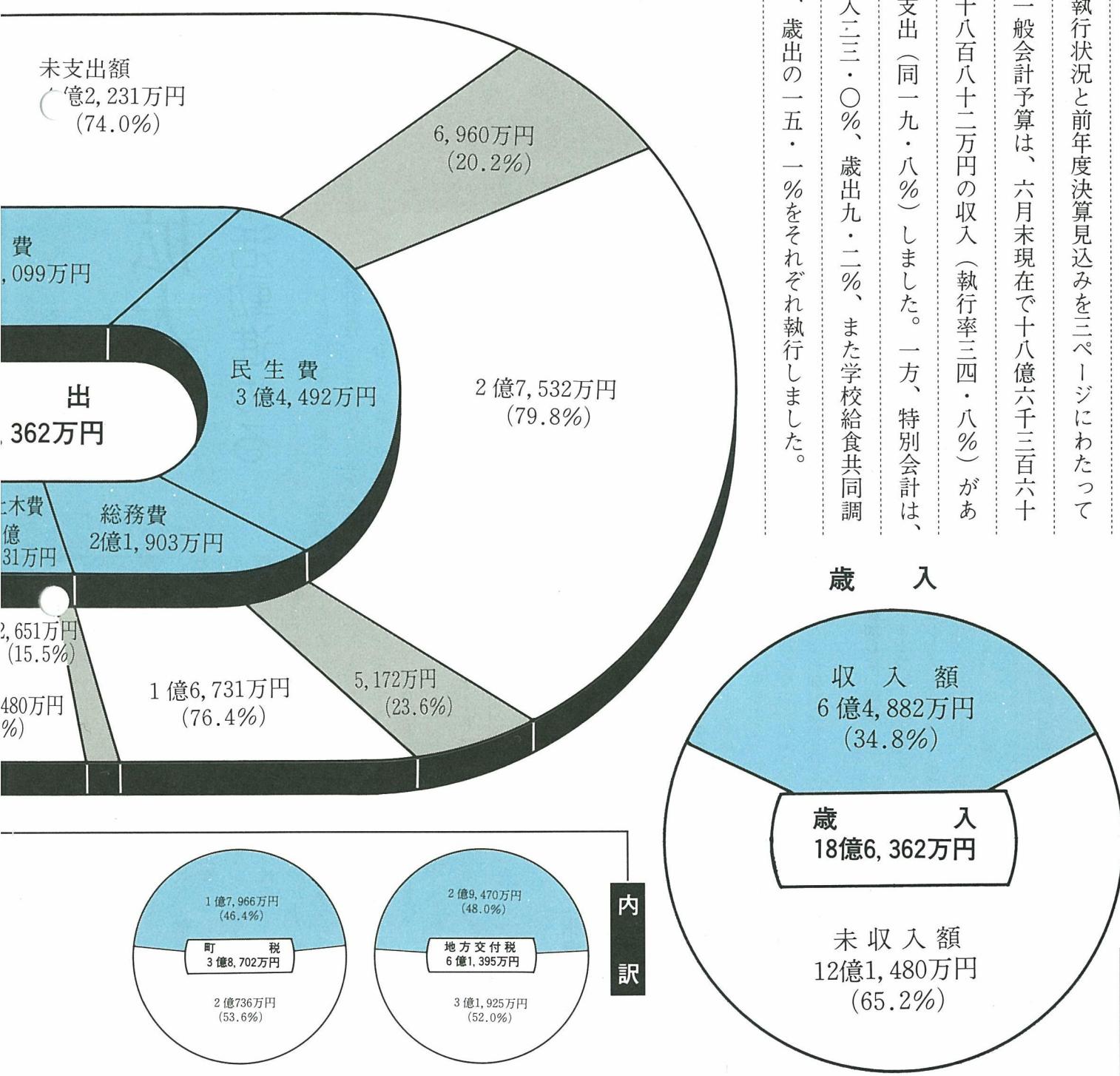
- ① 地域社会の現状と問題点を広報紙などで取り上げ、住民の自主性と責任性による問題解決意識の向上を促す。
- ② コミュニティーブルには、それを指導し、推進していくよきリーダーが必要不可欠。そのためリーダーの現況を把握し、組織体制を確立して強力にリーダーの養成を進める。

- ③ 地域一体となつたミニユーニティー活動を進めるため、モデル地域を指定する。

広報かわべ

町の“家計簿”

昭和56年度4月～6月



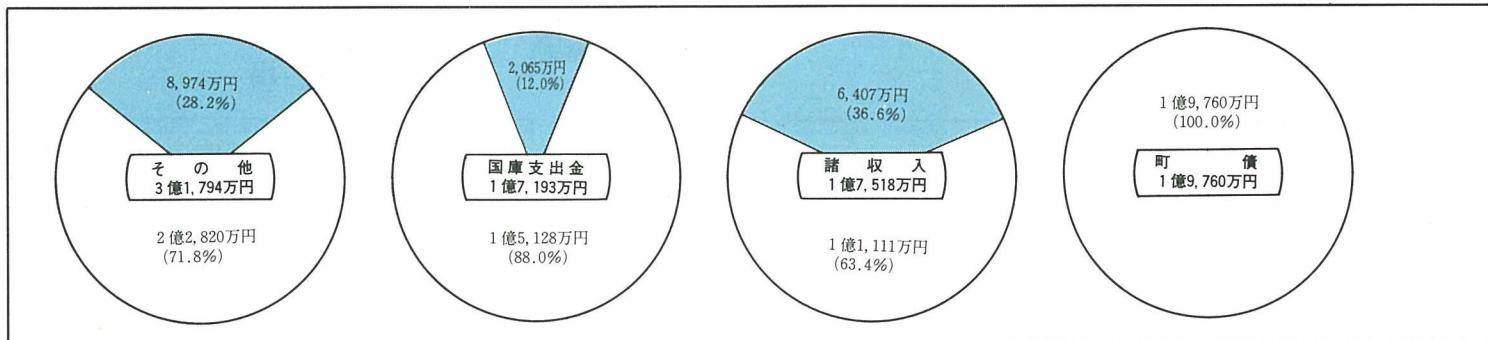
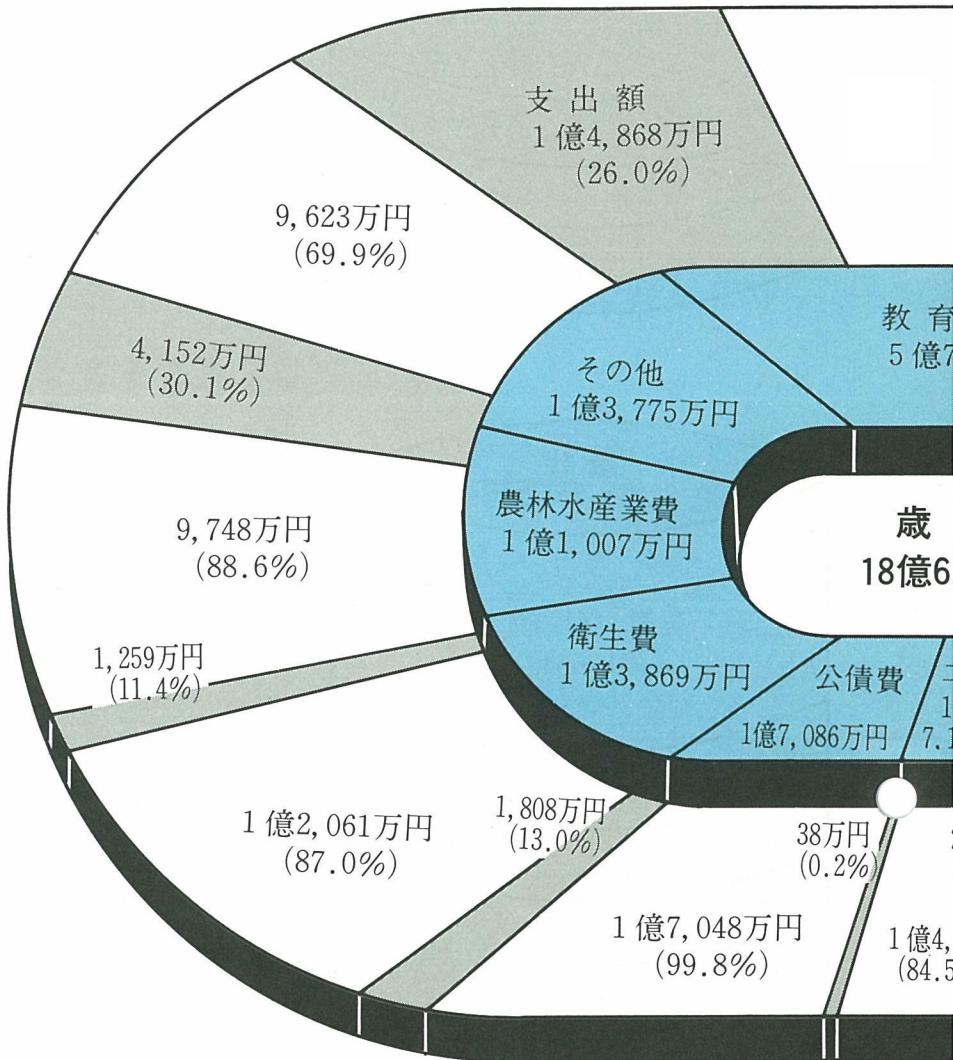
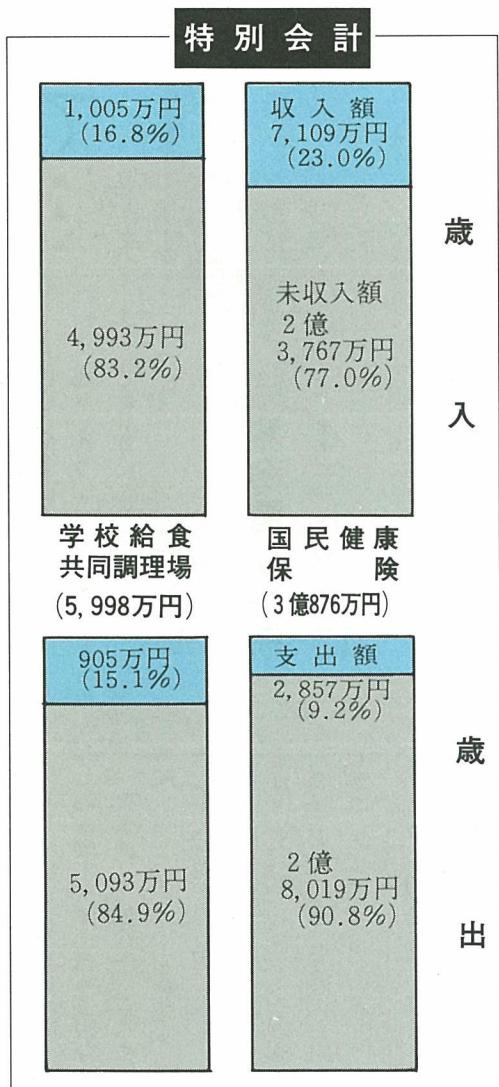
二万円。三ヶ月間で六億四千八百八十二万円の収入（執行率三四・八%）があり、三億六千九百八万円を支出（同一九・八%）しました。一方、特別会計は、国民健康保険の執行率が歳入二三・〇%、歳出九・二%、また学校給食共同調理場は、歳入の一六・八%、歳出の一五・一%をそれぞれ執行しました。

本年度四一六月分の予算執行状況と前年度決算見込みを三ページにわたつてお知らせします。本年度の一般会計予算は、六月末現在で十八億六千三百六十

ごらんください

執行率は19.8%

歳出



去年も黒字で…

55年度決算見込み

一般会計

前年度の一般会計の決算見込み

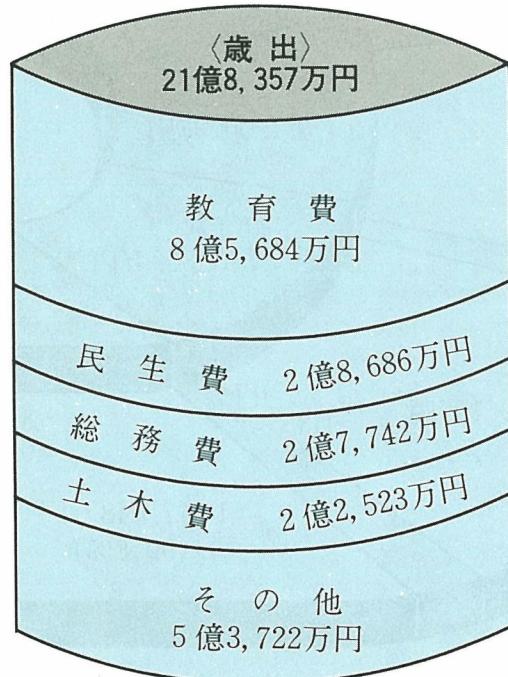
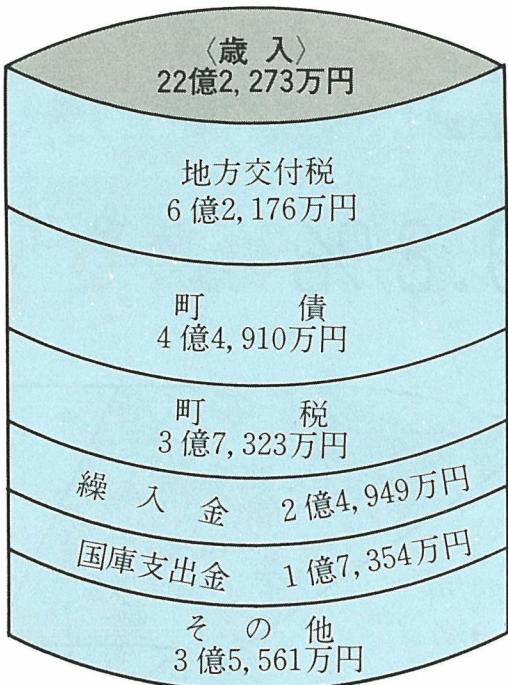
は、歳入が二十二億三千二百七十
三万円、歳出が二十一億八千三百
五十七万円でした。歳入・歳出差
し引きは三千九百十六万円となり、
黒字を維持しました。

歳入で最も大きいものは地方交
付税で、六億二千百七十六万円。
歳入総額に占める割合は二八・〇
%です。

町税収入は地方交付税、町債に
次いで三番目に大きく三億七千三
百二十三万円。全体の一六・八%
を占めています。町税のうち町民
税の収入は一億七千九百四十六万
円で、町税全体の四八・一%。う
ち個人分は一億四千七百五十四万
円で、町税の三九・五%に当たり

一人当たり一 万四千円負担

歳入決算見込み額は、前年度決



教育費が連続 4年トップに

歳 出

歳出決算見込み額は、前年度決
算額より一億七千八百七十六万円
多く、率にして八・九%の伸びを
見せました。

歳出で最も大きなものは教育費
の八億五千六百八十四万円。歳出
全体の三九・二%を占めました。

北小・東小の両校舎、体育館のほ
か中央公民館の建設など、一連の
施設建設により、教育費は五十二
年度から連續四年歳出のトップの
位置を占めています。

特 別 会 計

国民健康保険事業 歳入が二億
八千八百八十一万円で、前年度決
算額より九・八%の増、歳出が二
億七千五百十三万円で、同じく一
三・八%の増です。

学校給食共同調理場 同特別会
計は、歳入が五千六百五十七万円、
歳出が五千六百五十六万円で、と
もに前年度決算額より六・〇%ず
つ伸びています。

特 別 会 計

歳 入

歳 出

2億8,881万円

国民健康保険

2億7,513万円

5,657万円

学校給食

5,656万円

ます。わたしたち一人当たりが負
担した税金は約一万四千円、一世
帯当たりでは約五万七千円を負担
した計算になります。

教育費以外の決算見込み額は次
のとおりです。（決算規模順・カ
ッコ内は歳出全体に占める割合）

▽民生費 二億八千六百八十六
万円（一二・一%）▽総務費 二
億七千七百四十二万円（一二・七
%）▽土木費 二億二千五百二十
万円（一〇・三%）▽その他
五億三千七百二十二万円（二四・
七%）



触れ合いの輪広がる 山辺おどり

町商工会青年部（加藤忍部長）主催の第四回川辺おどりが七月二十五、二十六の両日、中川辺の本町通と西小学校校庭で開かれました。「ふれあい広場」や「らくがき大会」「カラオケ大会」など盛りだくさんのプログラムにおおぜいの人が訪れ、好評を博しました。当日のもようを写真で再現してみました。

路上に陣取り、テレビアニメの人気者らをパネルに描く子供たち



ヤグラを囲んで踊りの輪が広がる



カラオケ大会には町内の
歌自慢がおおぜい登場

けたはずれの安値で飛ぶような
売れ行きを見せたふれあい広場

第25回郡体育大会

優 勝

(団体のみ)



家庭婦人ソフトボール



一般男子卓球



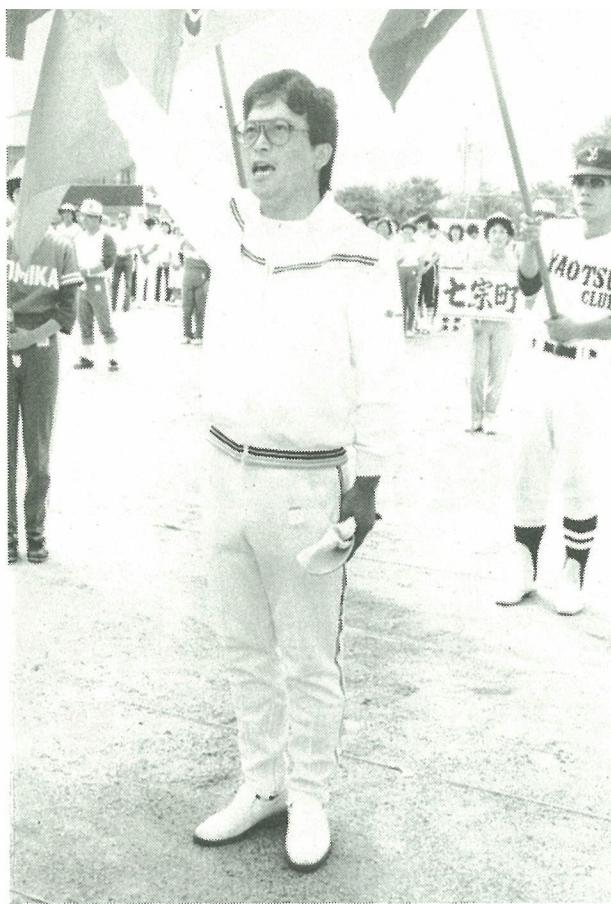
団体一般男子バドミントン

郡体育大会開会式で選手宣誓をする矢嶋良晴さん（北小運動場で）

5種目に優勝飾る

柔道は7年連続逸す

第二十五回郡体育大会が七月十九日、本町を主会場に三町十三会場で開かれました。わたしたちの町からは全種目に総勢二百人を超える選手が出場、技を競い合った結果、五種目に優勝、六種目に準優勝を果たしました。



開志を胸に秘めて堂々と入場行進する町選手団（北小運動場で）



一般男子バレー・ボール



準 優 勝

個人クレー射撃＝上野共房



団体一般女子バドミントン



ことしの大会は本町を主会場に開かれたため、選手や役員もこれまでにない意気込みを見せました。バドミントンの団体一般男子、個人一般女子、卓球の一般男子は予想どおりの強さを發揮し優勝。また家庭婦人ソフトボールは苦しい戦いをして勝ち上がり、決勝では勢いに乗って富加町に快勝、栄冠を手中にしました。軟式庭球一般女子もよくがんばり優勝

柔道



しました。柔道は七年連続優勝の期待がかけられましたが、惜しくも快挙達成はなりませんでした。本町の種目別成績は次のとおりです。（三位まで・敬称略）

【優勝】 ◇ソフトボール▽家庭婦人◇軟式庭球▽一般女子＝木村恭子・林恭子◇卓球▽一般男子◇バドミントン▽団体一般男子▽個人一般女子＝平田島子・則武つゆ

【三位】 ◇バレー・ボール▽家庭婦人◇ソフトボール▽一般女子◇軟式野球◇軟式庭球▽一般男子＝長谷川実・奥村明◇バスケットボール▽一般男子▽一般女子◇クレー射撃▽団体



一般女子卓球

お話を聞かせて

前島茂さん

第二十五回郡体育大会が終わりました。そこで今月は、郡体育協会副会長として大会運営に携わつた町体育協会会長の前島茂さんに、大会を振り返つていろいろと聞い

——本町が郡体育大会の主会場

—ことしの町選手団の成績をみると優勝五種目、準優勝六種目、三位七種目と合わせて十八種目が入賞してますね。去年は入賞が十

——そうですね。そうした選手の努力によつて十八種目が三位以内に入賞したわけですから。

郡大会で優秀な成績を収めた人たちというのは、日ごろの行動もしっかりしています。やつぱり自覚が出てくるんですね。そういう意味からも、子供たちにスポーツを奨励したいと思っています。

選手はよくやりました

になつたということで、いろいろ
気苦労があつたと思うんですが。

前島 設備の点で、いちばん気を使いました。これまでよその町で開かれた大会に劣るようでは川辺町の名折れになるということ、いろいろ手配しました。

やつてくれたと思います。練習のときにコーチを招いたりして、いつしようけんめいトレーニングに励んだチームもあります。よく練習しましたよ、ことは。

ます。汗を流すことでみんなの心が通い合いますし、なによりスポーツは礼儀を重んじますから。



〈町体育協会会长〉71歳・下麻生

二種目だつたわけですが、それと比べるとことしはかなりがんばつたといえるんじゃないですか。
前島 ことしはここ（川辺町）
でやるということで選手にハッパをかけて、四月ごろから猛練習をやつてもらいましたから。夜もだいぶん練習をやつたでしようね。
一二、三位の入賞種目がぐんと増えましたね。

子供たちこそスポーツ

子供たちにスポー
ツ勧めたいですね

——町全体のスポーツ熱も高くなってきたように感じます。

二種目だったわけですが、それと比べるということはかなりがんばつたといえるんぢやないですか。

前島 ことしはここ（川辺町）でやるということで選手にハッパをかけて、四月ごろから猛練習をやつてもらいましたから。夜もだいぶん練習をやつたでしょうね。

——二、三位の入賞種目がぐんと増えましたね。

前島 練習の成果があつたと思ひます。だいたい予想した種目がいいところに入つてます。ただ優勝と準優勝の種目をもう少し増やしたかったんですが……。でもここの数年、加茂郡全体のレベルが上がってきてますから、その中でいい成績を残した選手たちは、よくしたかったんですね。

やつてくれたと思います。練習のときにコーチを招いたりして、いつもようけんめいトレーニングに励んだチームもあります。よく練習しましたよ、ことしは。

——そうですね。そうした選手の努力によつて十八種目が三位以内に入賞したわけですから。

いたのは十種目に優勝するというところだつたんです。でも準優勝が前島 町体育協会が目標としていたのは十種目に優勝するということ

多かつたから、ままずじやないですか。来年はなんとか十種目優勝を果たしたいと思つています。そしてゆくゆくは全種目に優勝したいという野望を持つてゐるんです。川辺町は加茂郡の中心ですから、スポーツ面でもリーダーシップをと……。

子供たちにスポーツを勧めたいですね

前島 そうですね。こうした大会に限らず、ふだんでも町の人たちは熱心にやられるようになりました。スポーツをやつていれば、いま問題になつてゐるような非行といふこともなくなるような気がします。汗を流すことでみんなの心が通い合いますし、なによりスポーツは礼儀を重んじますから。

郡大会で優秀な成績を収めた人たちというのは、日ごろの行動もしつかりしています。やっぱり自覚が出てくるんですね。そういう意味からも子供たちにスポーツを奨励したいと思つてゐます。

新鮮な野菜いかが

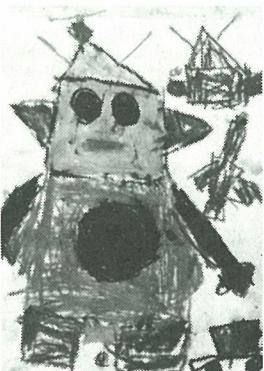
超安値でにぎわう“朝市”



超安値で売り出された農産物を買いに訪れた主婦でにぎわう“朝市”（中川辺の農協広場で）

はなしの ひろば

町の話題、できごとは役場企画
室広報係（電2511-1代）へ。



さいとうしんいち（六歳）＝比久見
(上米田保育園)

“店開き”前から近所の主婦らが訪れ、段ボール箱やムシロの上に並べられたとりどりの農産物を品定め。二回めの七月十三日には「この前来たときは、もう売り切れやつてたから、きょうは早く来たわ」と話す奥さんも。ナス、トマト、キュウリなどが市価のほぼ半値とあって売れ行きは上々。“閉店”を待たずに売り切れるものもありました。

子供たちが募金運動を始めたのは、7月6日の七夕祭りのときに、ユニセフ活動を紹介したフィルムや悲惨な生活を送る世界の子供の実情を写したストライドを見たのがきっかけ。「かわいそうな子供たちのために、ぼくらもなにかをしよう」と立ち上がりました。

毎週月、水、金曜日を募金の日と決め、学級ごとに子供たちが小遣いを出し合いました。児童会本部役員が取りまとめました。な

く、「店開き」前から近所の主婦らが訪れ、段ボール箱やムシロの上に並べられたとりどりの農産物を品定め。二回めの七月十三日には「この前来たときは、もう売り切れやつてたから、きょうは早く来たわ」と話す奥さんも。

ナス、トマト、キュウリなどが市価のほぼ半値とあって売れ行きは上々。“閉店”を待たずに売り切れるものもありました。

市は朝七時から九時まで。一回めの七月六日は、町の人人が買いに来てくれるか心配していた農協も、まずまずの出足にほつと一息。「これならいける」と意を強くしてしまします。

中川辺の農協広場で、七月から毎週月曜日に“朝市”が開かれ、たくさんの町民でにぎわっています。新鮮な野菜を安い値段で地元の人たちに味わってもらおうと、農協が町内農家に出店を呼びかけ始めたもので、これからもずっと続けていく計画です。

市は朝七時から九時まで。一回めの七月六日は、町の人人が買いに来てくれるか心配していた農協も、まずまずの出足にほつと一息。「これならいける」と意を強くしてしまします。

苦しむ世界の子に愛の手 西小

小児童らはこのほど、飢えなどに苦しむ世界の子を救おうと募金を行い、集まつたお金写真を7月20日、東京都港区の日本ユニセフ協会へ送りました。

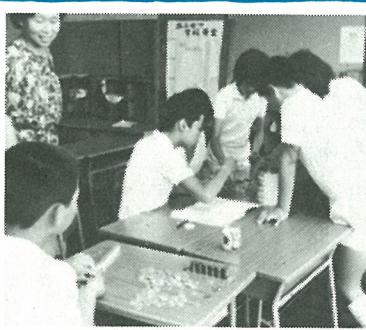
苦しむ世界の子に愛の手 西小

かにはズラリとひもでつないだ五円玉や、清涼飲料水のビン一杯に硬貨を詰めて持つてくる子供たちも。

二週間にわたる募金運動で集まつたお金は六万七十二円。「助け合いの心を育てるために、今後も続けるよう指導していただき」と、先生たちは話していました。

川辺中

郡中学校体育大会 7月21、22日に川辺中など四会場で。同中の成績は次のとおり。（敬称略）



【団体の部】 ◇男子▽優勝 テニス、野球▽準優勝 バレーボール、バスケットボール▽三位 位 卓球◇女子▽優勝 バドミントン、バスケットボール、バレーボール▽準優勝 テニス、ソフトボール▽三位 卓球

【個人の部】 ◇男子▽優勝 テニス（富権・横田）▽三位 同（井戸・渡辺）◇女子▽優勝 トン△シングル（田原ひとみ）ダブルス（後藤・平岡）▽準優勝 同△シングル（拓殖栄子）ダブルス（肥田・辻）三位まで中濃体育大会へ。



坪内紫帆ちゃん(4歳)=上川辺
(義人さん・紀子さん長女)

たのはわずか一頭。鉄砲に恐れをなしたサルは、いまのところ鳴りをひそめていますが、またいつ轟きを始めるやらわからず、農家の人たちをヤキモキさせています。これまでに同地区で確認されたサルは二十頭以上。群れを成して

サル害に農家困惑 下吉田にて
のところ、サルが集団で出没、農
作物に大きな被害を与えていました
そのため町は、町獣友会（古田隆
会長）に依頼してサル退治に乗り
出しましたが、7月9日から24日

下吉田

*

まちかど

モモやシイタケを略奪するなどの悪行を繰り返していました。『伐』に当たった獵友会が7月14日に一頭仕留めたものの、その後姿はパツタリ。「このまま山中でおとなしくしていってくれればいいが……』と、農家もサルの動きに注目しています。

通り魔殺人などの被害者遺児に救援金　町商工会（奥田信義会長）はこのほど、財団法人犯罪被害救援基金設立準備委員会へ四万五千円を送りました。

總合

件の被害者遺児に学資などの育英資金を援助するためのもので、商工会の送ったお金は同基金設立のための準備金に充てられます。

第9回町消防操法大会 7月26日には東小校庭で開かれました。大会には十五チームが出場、第一分

原雅博、紅谷剛、佐藤康文||敬称略）||写真||が優勝しました。

② 第二分團二部C（石井秀、渡辺政彦、飯田房雄、湯浅恒彦）③ 同一部B（石井和雄、石井国彦、古沢昭、紅谷友則、篠田宗直）

A black and white photograph of five men in military uniforms. Three men are standing in the back row, and two are kneeling in the front row. They are all wearing helmets and dark uniforms. Each man is holding a rectangular certificate or plaque. The man in the center of the front row is holding a certificate with text that appears to be in Chinese. The man on the right of the front row is holding a certificate with text that appears to be in English.

道路の草刈りや神社掃除で7月5日、同地区的通学路や神社、公民館などの清掃を地区民総出で行いました。

この日の清掃作業に参加したのは百二人。地区と町の中心部をつなぐ“玄関口”として、また子供たちの通学路として欠かせない県



集まつた人たちの目を引きました。同支部は9年ほど前から、毎年この時期に盆踊りを開いてきましたが、「マンネリ化も手伝つてここ数年はやや低調気味。そこで『なんとか打開策を』と、コンテストを開いたのです。

コンテストは当日の夜8時半から9時まで。「一休さん」や「ラダーンス」「阿波踊り」など趣向をこらした十二組の出場者が踊りました。

部長)は7月15日、同地区公会堂わきの広場で開かれた盆踊りで変装踊りコンテスト『写真』を催し、集まつた人たちの目を引きました。

道美濃一川辺線の掃除を中心に行われました。地区内の道路だけでなく、中川辺の大北地区まで出かけ、草が生い茂つて見通しの悪い所を、草刈り機やカマなどを使つてきれいにし、安全に通れるようしました。

今月の
料理



【材料】五人分】卵八個、酒
大きじ二杯と三分の一、砂糖大
きじ一杯と三分の一、デンプン
同、米四百グラム、甘酢シヨウガ少
少、合わせ酢(酢六一二cc)、塩小
さじ四分の三、砂糖二十五グラム、
ハム五枚、パセリ(みじん切り)
大きじ二、生シイタケ十枚、白
いりゴマ大きじ三

厚手のフライパンか卵焼き器を
じゅうぶん暖め、溶き卵を流し
入れて一人三枚の薄焼き卵を作
ります③合わせ酢の材料を混ぜ
合わせ、熱いごはんにかけて手
早く混ぜ合わせます④生シイタ
ケは細く切り、いためます。ハ
ム、パセリも細かくります(パ
セリは水にさらします)⑤③の
すし飯に④の具と白ゴマをさつ
と混ぜ、三等分して軽くまとめ、
薄焼き卵一枚ずつ中央にのせ、
四方から包んで形を整えます⑥
器に甘酢シヨウガをあしらいま
す。おもしも、少しの工夫で目
先が変わり、樂しくなります。

保健だより

73・2%が「健康」

老人審査要治療ほとんど高血圧

七月七日から十日までの四日間、町内四会場で六十五歳以上のお年寄りを対象に、老人健康審査を行いました。対象者数は男性五百二十人、女性六百八十八人で合わせて千二百十八人。この人たちに各地区の福寿会長さんから検診の案内をしていただきたところ、こしは三百十七人が受診されました。

お年寄りというには、まだほど遠いといった感じの人が多く、健診に受診者は、昨年より百四人、率にして八・四%減りました。受診したのは対象者の四人に一人。残り三人は（都合が悪くて受診できなかつた人もあるでしょう）

三百十七人の結果は▽健康二百三十二人（七三・二%）▽要精密検査五十五人（一七・四%）▽要治療三十人（九・四%）――でした。健康な人は、昨年の七三・六%とほぼ同率を占めました。精密検査の必要な人は昨年の一一・一%より増え、治療の必要な人は一・二%から九・五%へと減少しました。精密検査の必要な人は、現在町内の医療機関で検査を受けています。

治療が必要と診断された人の内訳は、高血圧が二十一人（七〇・〇%）と圧倒的に高く、次いで心臓病の三人（一〇・〇%）となっています。昨年、治療の必要な人六十四人のうち高血圧は四十五人（七〇・三%）でしたが、ことしも同じ傾向を示しました。

きょうもお元気で



元気な老後を送れるよう健康審査に積極的に参加を（鹿塩公民館で）

お年寄りに高血圧はつきものようです。日ごろから健康状態に気をつけ、元気に暮らせるようにしましよう。ゲートボールが盛んに行われています。運動、休養、食事のバランスを考えて、より充実した日々を送つてください。

運動、休養、食事のバランスを

ところで、過激な運動や労働などで、全身的に筋肉が硬直してしまったようなときは、塩水を飲んだり、医師にリンゲルやブドウ糖の注射をしてもらったりします。こむらがえりの治療にも、塩分の補給

一般的には、局所的な激痛を伴います。が、これは筋肉が硬直し、血管が圧迫されて血液の流れが急激に悪くなるために起るものです。



足の裏からマッサージ

まず最初は、足の裏側の親指側にある公孫（こうそん）というツボ（こむらがえり）といいます。踏まずの先端のところと、足の裏の中心点を指圧し、続いてマッサージをします（左図参照）。さ

らに、すね、ふくらはぎも無理なくもみほぐしていきます。



が）お医者さんにかかることがあります。

三百十七人の結果は▽健康二百三十二人（七三・二%）▽要精密検査五十五人（一七・四%）▽要治療三十人（九・四%）――でした。健康な人は、昨年の七三・六%とほぼ同率を占めました。精密検査の必要な人は昨年の一一・一%より増え、治療の必要な人は一・二%から九・五%へと減少しました。精密検査の必要な人は、現在町内の医療機関で検査を受けています。

海・山の行楽シーズンです。水泳中や登山の強行軍の中などに、足がつって、こむらがえりを起こすことがあります。

ふだん使わない筋肉が、運動などで急に使われると、その筋肉の働きに無理が生じ、こむらがえりを起こすのです。

がよいといわれています。

さて、突然こむらがえりが起つたときの応急処置ですが、水泳中などの場合は直ちに水から上がり、突然こむらがえりが起つたときの応急処置ですが、水泳中など

の場合は直ちに水から上がり、突然こむらがえりが起つたときの応急処置ですが、水泳中など

